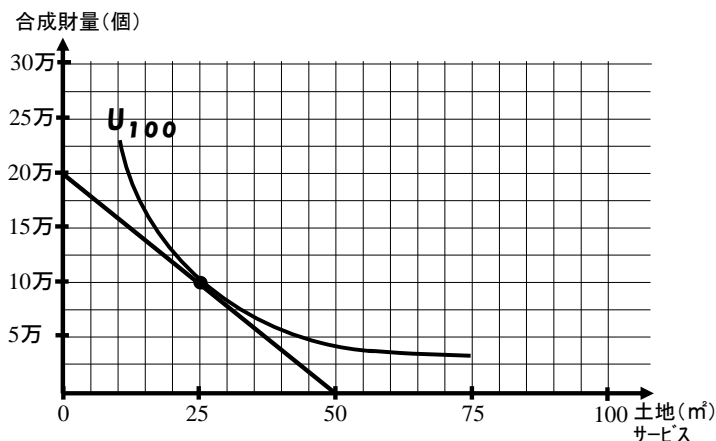


## 『都市の経済学 小テスト No. 7』

以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっている。

※  で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

図 1



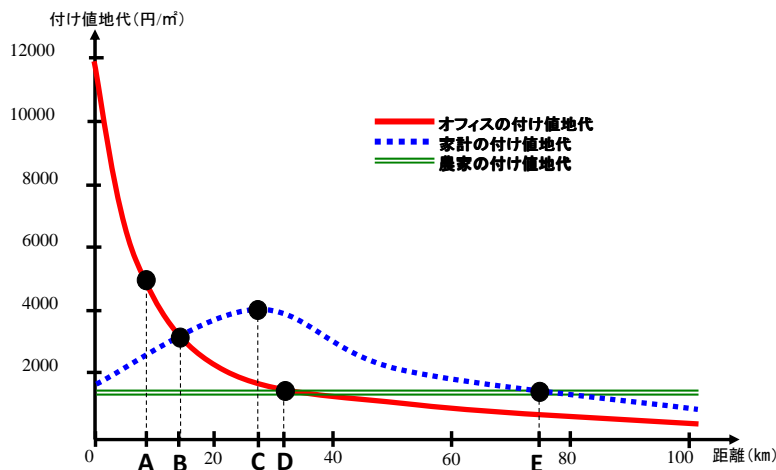
- 図 1 は、土地市場が均衡している状況において、ある家計における毎月の合成財と土地サービスの消費における、無差別曲線と予算制約線を表している。ただし、この家計は交通費として別途 2 万円/月を支出しているとする。この家計の総収入は、 1 (①10 万円、②18 万円、③20 万円、 ④22 万円、⑤その他) である。また、合成財消費量は 2 (①10 万円、②18 万円、③20 万円、 ④22 万円、⑤その他) であり、土地サービス消費量は 3 (①20 ㎡、 ②25 ㎡、③30 ㎡、④50 ㎡、⑤その他) である。また、予算制約線の縦軸の切片 (20 万) は 4 (①市場地代、②付け値地代、③総所得、 ④可処分所得、⑤その他) を表しており、傾きは 5 (①市場地代、 ②付け値地代、③総所得、④可処分所得、⑤その他) を表している。
- 上記において、この家計が交通費 1 万円の場所に移動した場合、以下の文章で正しいものを選び、 6 に回答しなさい。ただし、引っ越しの移動費用はかからないと仮定する。

  - ① 無差別曲線が右にシフトして、予算制約線の傾きが変化する。
  - ② 無差別曲線が左にシフトして、予算制約線の傾きが変化する。
  - ③ 予算制約線の切片が上に移動して、予算制約線の傾きが大きくなる。
  - ④ 予算制約線の切片が下に移動して、予算制約線の傾きが小さくなる。
  - ⑤ 無差別曲線と予算制約線に変化は生じない
- 上記において、この家計は交通費 1 万円の場所に移動した結果、騒音等の対策費用として 1 万円の支出を追加的に行う事になったとする。この場合、以下の文章で正しいものを選び、 7 に回答しなさい。ただし、引っ越しの移動費用はかからないと仮定する。

  - ① 無差別曲線が右にシフトして、予算制約線の傾きが変化する。
  - ② 無差別曲線が左にシフトして、予算制約線の傾きが変化する。
  - ③ 予算制約線の切片が上に移動して、予算制約線の傾きが大きくなる。
  - ④ 予算制約線の切片が下に移動して、予算制約線の傾きが小さくなる。
  - ⑤ 無差別曲線と予算制約線に変化は生じない

外部不経済への対策費用を考慮した結果、家計の付け値地代は図2の点線のような形になった。以下の問いに答えなさい。

図2



4. 家計の付け値地代が最も高い地点は  (①点 A、②点 B、③点 C、④点 D、⑤点 E、⑥その他) である。また、家計の可処分所得が最大化する距離は  (①点 A、②点 B、③点 C、④点 D、⑤点 E、⑥その他) である。
5. 公害問題の緩和を目指して、政府はオフィスが立地できる場所を図2の中心部から点 A までと規制した。この結果、オフィスにまつわる外部不経済の総量が減少した場合、家計の対策費用は  (①増加する、②減少する、③変わらない、④分からない、⑤その他)。これにより、家計の付け値地代は都市全体で  (①上昇する、②低下する、③変わらない、④分からない、⑤その他)。この結果、社会全体での便益は増加する可能性がある。
6. 公害問題の緩和を目指して、政府はオフィスが立地できる場所を図2の中心部から点 B までに規制した。この時、社会全体の便益は  (①増加する、②減少する、③変わらない、④分からない、⑤その他)。